

最上川における近年のアユ漁場の現状

山形県内水面水産試験場 資源調査部 荒木康男

1 目的

近年、良好なアユ友釣り漁場で、アユがいるにもかかわらず友釣りの釣獲が不振になった漁場がある。この原因を明らかにする。

2 調査（実施）方法

寒河江川において、良好漁場 3 地点、不振漁場 3 地点、月布川水系から良好漁場 2 地点、不振漁場 1 地点を選び、河川環境 39 項目、アユの生息密度、アユの釣獲調査を実施した。

3 調査（実施）結果

良好漁場と不振漁場には、河川環境のうち川底の石の大きさに違いがあった。良好漁場では、長径 25cm 以上の大きな石が多く、石の状態は浮石、載り石であった。不振漁場では、長径が 25cm 以下の小さな石が多く、石の状態は沈み石であった。

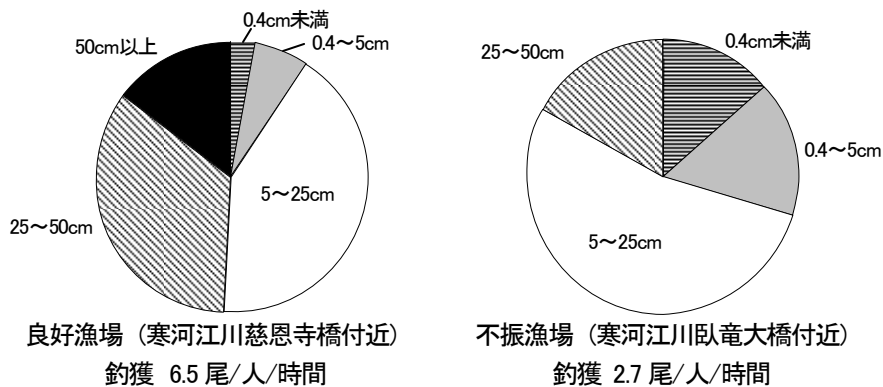


図 良好漁場と不振漁場における河床の石の長径

4 考察

河床の石が小さくなる要因として、ダムなどの河川工作物により上流から大きな石の供給が止められたことにより、小さな長径の石が増加したことが考えられた。

河床を平らに均された場所で河床を掘り起こし、釣獲改善を試みたが明確な結果は得られず、改善の手法や改善後の調査方法に検討が必要と考えられた。

石の大きさがなぜアユの縄張り形成に影響するかは不明であり、更に今後検討が必要である。

5 まとめ

これまでの増殖手法は種苗放流が中心だったが、今後は環境の改善も考慮する必要がある。